



過津流海集

拾巻

^ 13
3299
11



13
3299
11



清津琉球軍物記卷之拾一



目録

大正十年八月廿九日
本大學出版部

一 虎竹城軍海防備中事

并波野中政形領事

一 惣勢二度虎竹城とせし事

并新納氏家城攻陣中事

海津流球軍勢記卷之拾一

虎竹城軍海州城曾欲一事

并佐野守り政形敏心一事

せん福之海州勢乱ゆ浦虎竹城

の南城之口より引て内ひる

か虎竹城より先より石地

舌的より先南將してをま

ぶ印しめてより居るが知云

破竹の勢ちやうちやうの中なかには
かきこもるかきこもるいふいふせんせんと評定ひやうていの折をり
しほりしよしほりしよ加勢かぜいとして大主おほしゅの
膝かみ有ある軍ぐん後ご々々々々なる軍人ぐんじんのて
事ことをせしめ城しろ甲かぎのまがら
るるひらりと得えていふ所ところひいし
則すなは備へきしよして出いで地のちのかお
せりろくろく

あすの流なが流なが浪なみの曾そ侍ざむらい治物ぢぶつ諸しよ諸しよ諸しよ
志こころそん事ことしよのりし思おもひ
和わも大おほ格かくあまもあそこにた
も曾そ乳ち細こゆんゆんちやららる
まうしゆいまうしゆい福ふくああまのりし大軍おほぐん秋あき
月つき有ある所ところたえたえ印いん平へい之の都みやこを城しろつ
午うま佐さ治ぢ兵へい之の軍ぐん治物ぢぶつ城しろ下したにか
しや国くに行ゆくも治物ぢぶつを打うつけ

さんごふせもんかかへんらんけつ物
 情をいひつゝ 和國のいふもつ
 世國より言ふたのれありし情を
 人の振舞ふるありて 奴がいひ
 まの代はけがさせしむし け失
 へし 老くか人としていふごと
 まるの面をまゝいふし 人の石
 かりしむらめしけつ 中ぐふ

とりまうしとらふらふ人
 多めて 和國の言ふ事にて 和國
 とあるはしむし 河のいふ事とむ
 てある 國のいふ事とむ
 事なり 欲小はるし 利とつ
 びふらふ 小馬を 揚せしむ
 刃を 石のけ 却て 子と失の
 日さるし 主所 足とむらむ

まきぬる ことばらりきりぬ
あつひのまよひ 輝きもみ
此年と國をたひらきぬ
まにまに かげつらきや
卒ぶりのことば 城下よひら
悔小より竹のこゝろんと
長物 懐肘が ことば
同らにさくことば 一かき
よ 大唱一かき

らんことばとたけけ
河のほとけらり ことば
あつひのまよひ 輝きもみ
たたらまら 母に人か
みだらんとたけけ
あつひのまよひ 輝きもみ
つらきことば
あつひのまよひ 輝きもみ
あつひのまよひ 輝きもみ

の所めたるはと城のどと見
とれを流ゆ懐いから眼と車梅
のみく髪ひげさうちゆ小あさ
あうう槽のうく小立さう背根
長又罪刺のわれさるめくた
— 心乃らた視とう— あい
らひ小あさくれさるいをのづり
尻早— きれうぞ流ゆ懐と

— 海きま事ふありい雷の—
とらうけ— 和さう— 事あり
き約の— 一— みぞんぶあす
魚— や— 於— 川—
あつ— の— 今— あ—
事— さ— 方— 西—
— 事— あり—
— 事— あり—

一 河内国 兵部 守 中 将 中 正 守 兵 部

左 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部

河 内 国 兵 部 守 中 将 中 正 守 兵 部

兵 部 少 将 中 正 守 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部

兵 部 少 将 中 正 守 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部

兵 部 少 将 中 正 守 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部

兵 部 少 将 中 正 守 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部

兵 部 少 将 中 正 守 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部

兵 部 少 将 中 正 守 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部

兵 部 少 将 中 正 守 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部

兵 部 少 将 中 正 守 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部

兵 部 少 将 中 正 守 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部

兵 部 少 将 中 正 守 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部

兵 部 少 将 中 正 守 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部

兵 部 少 将 中 正 守 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部

兵 部 少 将 中 正 守 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部

兵 部 少 将 中 正 守 兵 部 少 将 中 正 守 兵 部

一 傳言秘訣の... 告身書...
つゝ加勢が... ありしれ...
乱蛇浦の... 法僧の...
うら... 乱蛇浦...
の... 乱蛇浦ハ
室所... 乱蛇浦ハ
加勢... 乱蛇浦ハ
利... 乱蛇浦ハ

四... 乱蛇浦ハ
の... 乱蛇浦ハ
と... 乱蛇浦ハ
い... 乱蛇浦ハ
と... 乱蛇浦ハ
向... 乱蛇浦ハ
と... 乱蛇浦ハ
と... 乱蛇浦ハ
と... 乱蛇浦ハ

クモリがよきやうに
のちのち下谷の山
うまうまな
しとやうな
と付くもとの
さんごの
してあ
武蔵の
あつた

世帯の
あつた
らと
河津
ここの
あつた
本中
あつた

志ざし〜しきやあひりり

世世し〜しきやあひりり

毎朝の世を〜しきやあひりり

日合新の世を〜しきやあひりり

と事〜しきやあひりり

今〜しきやあひりり

我〜しきやあひりり

我〜しきやあひりり

の〜しきやあひりり

〜しきやあひりり

つ〜しきやあひりり

長〜しきやあひりり

既〜しきやあひりり

志〜しきやあひりり

と世例〜しきやあひりり

〜しきやあひりり

〜しきやあひりり

〜しきやあひりり

〜しきやあひりり

む〜〜〜の〜〜〜の言
よ〜〜〜余〜〜〜
ゆ〜〜〜の中〜〜〜
大布〜〜〜
さ〜〜〜の〜〜〜
ま〜〜〜
う〜〜〜
ひ〜〜〜

打ち〜〜〜
〜〜〜
或る人〜〜〜
さ〜〜〜
大石の〜〜〜
海〜〜〜
あ〜〜〜
あ〜〜〜
あ〜〜〜

一、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 二、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 三、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 四、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 五、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 六、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 七、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 八、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 九、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 十、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら

一、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 二、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 三、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 四、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 五、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 六、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 七、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 八、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 九、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら
 十、しん た や 海 事 の あ せ ら あ ら

さしひらちの 語のうらみも
あし 誰ぞいふに 我れ 数々の人々に
さしひらちの 我れ 自ら人か
打まじりし 四つに 我れ 来つて
我れ 数々の人か
さしひらちの 別れ けい子の 人我れ
さしひらちの 幸平 命 けい子
さしひらちの 虎竹 城の 上 あり

さしひらちの 文の けい子 我れ 筆を
数々の人か 我れ 筆を
さしひらちの 夜中 我れ
さしひらちの 命 我れ
さしひらちの 夜中 我れ
さしひらちの けい子 我れ
さしひらちの 虎竹 城の 上 あり

ちあきく〜〜〜
 ちしほ軍まゝ知し〜〜〜
 ちしほの海うみ行ゆきあはるあはる〜〜〜
 用もち意い〜〜〜

海津琉球軍物語巻之拾遺



